



2023年7月7日

各位

会社名 株式会社 技研製作所
代表者名 代表取締役社長 森部 慎之助
(コード番号 6289 東証プライム市場)
問合せ先 取締役 森野 有晴
(TEL 088-846-2933)

2023年8月期 第3四半期決算説明資料に関するお知らせ

2023年8月期第3四半期の決算概要および2023年8月期の通期業績予想等の説明資料を作成いたしましたので、別紙のとおりお知らせいたします。

以上

GIKEN

Construction Revolution



2023年8月期第3四半期(2022年9月~2023年5月)



株式会社 技研製作所 決算説明資料

2023年7月7日
証券コード:6289

本資料において提供される当社および当社グループの現在の方針、経営戦略などの情報のうち、歴史的事実でないものは、将来に関する記述をはじめとする、現在入手可能な情報をもとに構築したいわゆる「見通し情報」を含みます。これらは見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらのリスクや不確実性には、各国の経済状況や業界並びに市場の景況、金利や物価、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本資料に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

2023年8月期第3四半期 決算概要

第3四半期累計期間業績推移

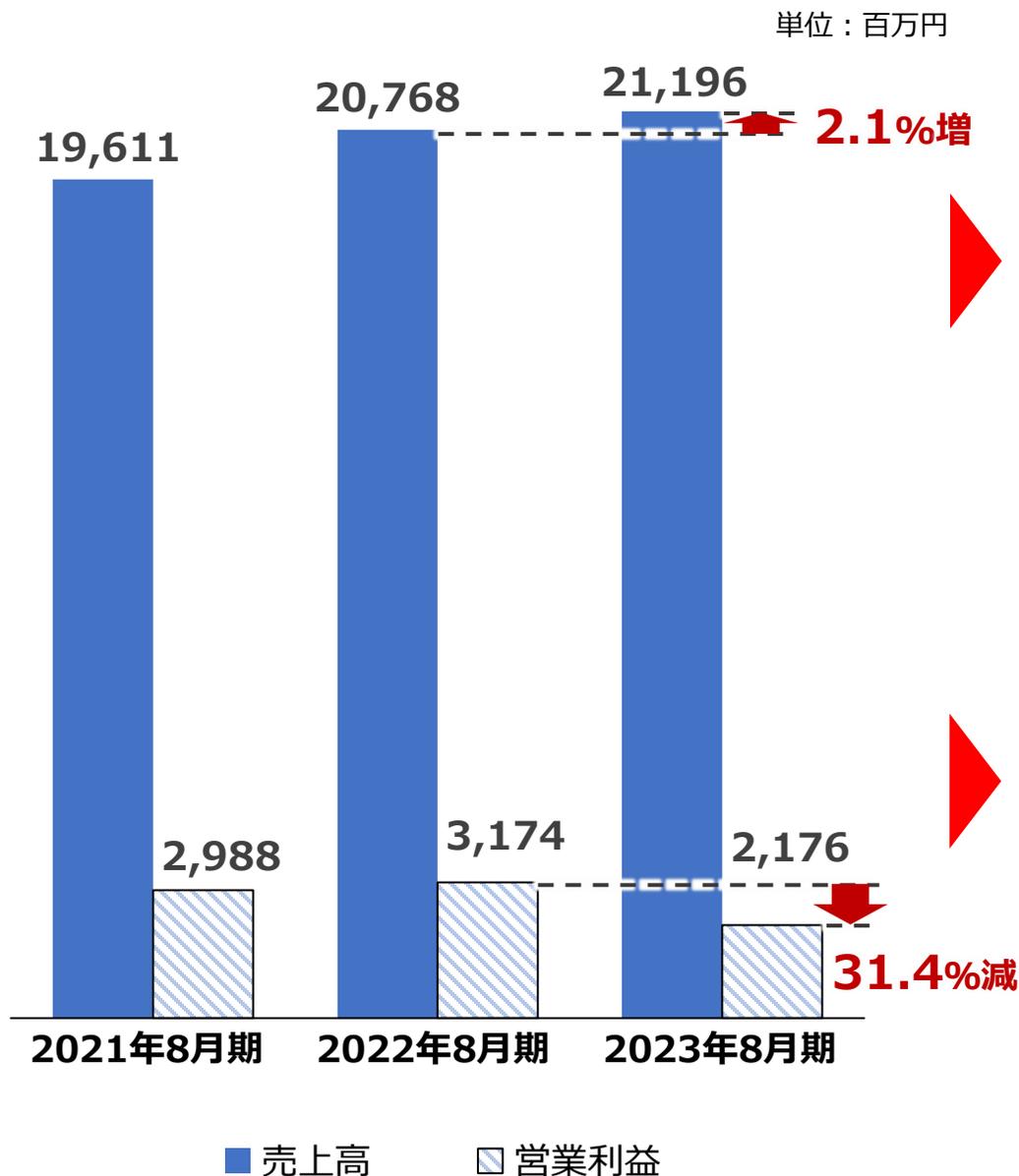
単位：百万円

	2021/8期	2022/8期		2023/8期	
	第3四半期実績	第3四半期実績	前年同期比	第3四半期実績	前年同期比
売上高	19,611	20,768	+5.9%	21,196	+2.1%
営業利益	2,988	3,174	+6.2%	2,176	▲31.4%
経常利益	3,108	3,315	+6.7%	2,253	▲32.0%
四半期純利益※2	2,084	2,200	+5.5%	※1 223	▲89.9%
1株純利益 (円)	76.15	80.05	+5.1%	8.11	▲89.9%

※1 2023年8月期第3四半期は、特別損失として関係会社整理損 1,367百万円を計上しております。

※2 四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

売上高・営業利益 — 第3四半期累計実績比較



【売上高変動要因】

- 汎用機の入れ替えが順調に推移
- 鋼矢板を硬質地盤に圧入する際のオーガ装置の掘削能力、施工効率を向上する「フライホイール式パイルオーガ」の販売が好調
- フライホイール式パイルオーガを標準搭載した新型機「サイレントパイラー®F112」の市場投入

【営業利益変動要因】

- 鋼材価格が高騰する中、公共事業費に占める材料費の割合が大きくなり、結果として生じている施工量の減少傾向が、本設構造物の構築に用いる製品や部品販売に影響
- 試験研究費等の販管費増加

セグメント別— 第3四半期累計実績比較

建設機械事業

単位：百万円



■ 外部顧客売上 ■ 内部売上 ● 営業利益
() 内は営業利益率

【営業利益変動要因】

- 粗利率の高い製品・部品販売の減少
- 試験研究費などの販管費の増加

圧入工事業

単位：百万円



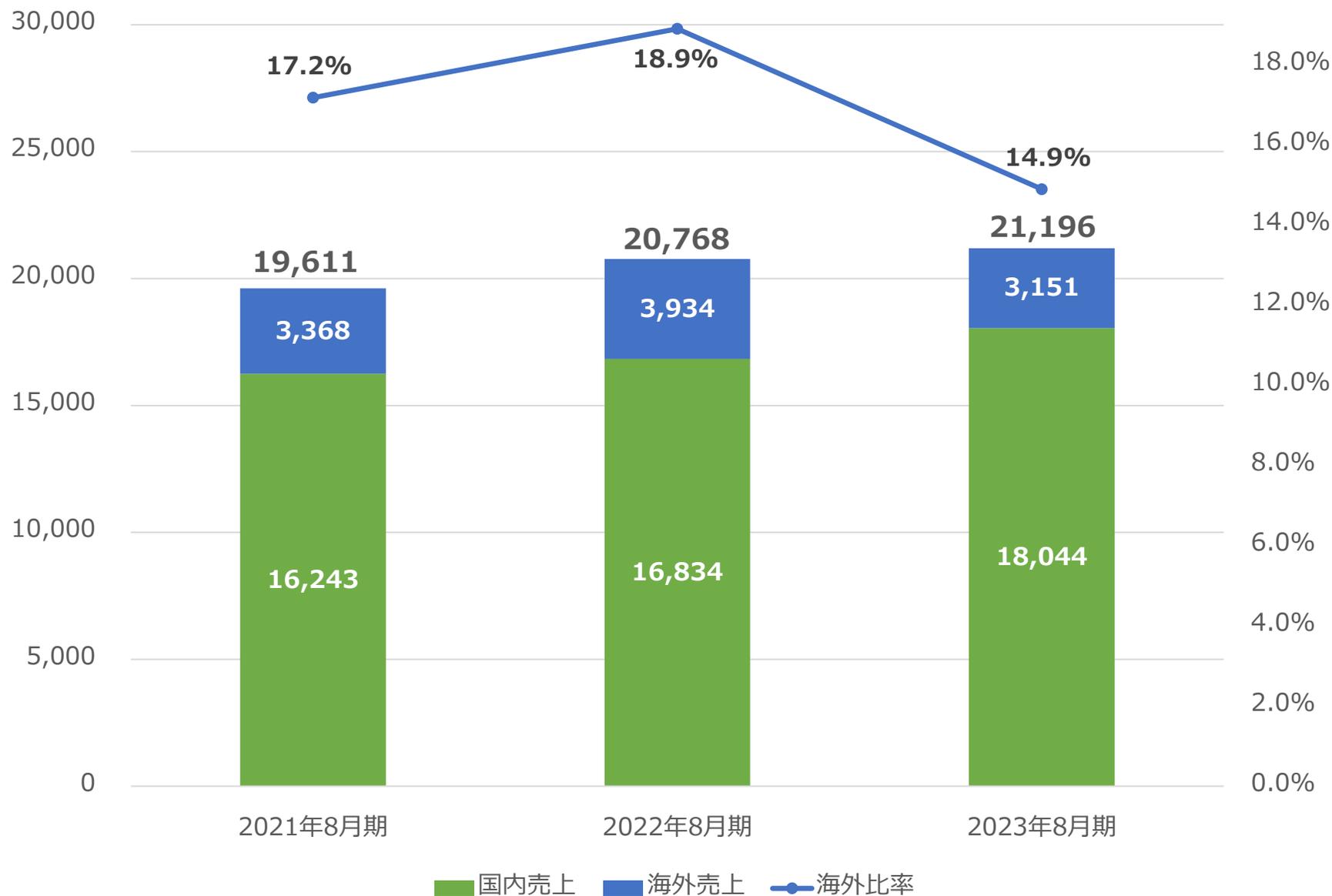
■ 外部顧客売上 ■ 内部売上 ● 営業利益
() 内は営業利益率

【営業利益変動要因】

- 粗利率の高い工事案件の減少

国内・海外売上推移 – 第3四半期累計実績比較

単位：百万円



2023年8月期 通期業績予想

通期業績予想

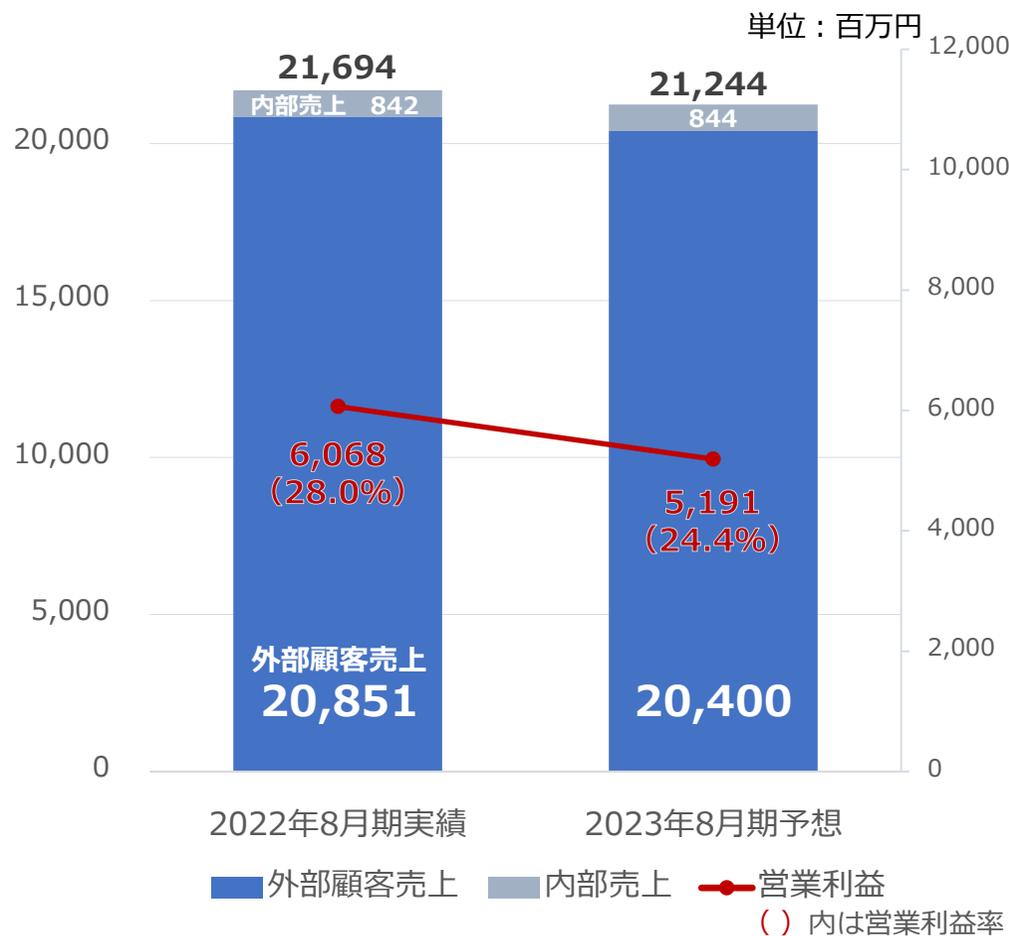
単位：百万円

	2021/8期	2022/8期	2023/8期	
	実績	実績	予想 (5月19日発表)	前年比
売上高	27,618	30,378	28,400	▲6.5%
営業利益	3,997	4,613	3,200	▲30.6%
経常利益	4,161	4,832	3,250	▲32.7%
当期純利益※	3,073	3,234	670	▲79.3%
1株純利益 (円)	112.22	117.65	24.36	▲79.3%

※当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

セグメント別予想

建設機械事業



【営業利益変動要因】

- 粗利率の高い製品・部品販売の減少
- 試験研究費などの販管費の増加

圧入工事事業



【営業利益変動要因】

- 粗利率の高い工事案件の減少

海外事業の進捗

市場形成が軌道に乗りつつある地域

■ヨーロッパ地域

- ✓ オランダ・世界遺産の運河護岸改修PJ等で市場形成が順調
- ✓ ドイツなど周辺諸国からの引き合いも増加傾向

■アジア地域

- ✓ シンガポール、タイで圧入市場が拡大

市場形成がまだ途上である地域

■南米・北米、オセアニア地域

- ✓ ヨーロッパ、アジア地域に比べて圧入市場形成が不十分。課題・成果を分析して戦略を再構築する

【第3四半期に実行したこと】

- ✓ オセアニア地域において、連結子会社であったJ Steel Group Pty Limitedとの合併関係を解消

ヨーロッパ、アジア地域を軸に
安定して成長する市場構造の確立に注力

オランダ・世界遺産の運河護岸改修PJで実証施工の圧入工程完了

発注者のアムステルダム市から高評価。「商業化フェーズ」に向けた協議を開始

PJは国土交通省インフラシステム海外展開行動計画（令和5年版）で「我が国企業による受注を目指す主要プロジェクト」として指定
また国土交通大臣表彰の「第6回JAPANコンストラクション国際賞」（先駆的事業活動部門）を受賞



「標準工法化」へ前進。現地ビジネス展開の準備も着々



ブラジルでのビジネス構築に向け

JICA支援を受けて三井物産と共に事業計画策定（6月28日発表）

グローバルビジネスの知見やネットワークに強みを持つパートナーと協働



持続的な市場形成、現地に根付いたビジネス体制の構築図る



Construction Revolution

Implant method change the Worldwide Construction